

桐生が岡動物園・遊園地の園内施設拡充 並びに周遊観光施策の推進について（継続）

桐生が岡動物園は昭和28年の開園以来、子供たちはもとより大人にも愛され親しまれ、動物に接することによる命の大切さが自然に身に付くなど、情操教育の場にもなってまいりました。

また、隣接する桐生が岡遊園地は、数々の大型遊器具・小型乗物を有し、その利用料金は最高でも200円と、大変リーズナブルな料金体系となっており、いずれの施設も桐生市内はもとより、広く関東エリアからも多くの方が来園される、桐生市を代表する観光スポットの一つとなっています。

市外からの更なる誘客を図るために、下記事項について要望いたします。

1. 開園以来数十年の年月が経過し、園内の遊器具や獣舎等の施設が老朽化していることから、ミニ蒸気機関車などの新たな遊器具の設置・獣舎の改築・新たな動物の購入等、園内施設の拡充を図るとともに、維持管理費プールの手段としての入場料有料化の検討。
2. 市外からの来園者が、桐生新町重要伝統的建造物群等の市内観光スポットを周遊したくなるような魅力ある観光施策の推進。

桐生市からの回答

1 について

動物園の新たな動物の導入については、市政施行100周年記念事業として、レッサーパンダの導入を計画しており、令和3年度中には、新獣舎の完成を予定しております。また、獣舎の改修については「ふるさと桐生応援寄附金」や群馬県の「千客万来支援事業補助金」を活用して、「動物本来の行動」を引き出す工夫をしながら改修を行っております。

遊園地のミニ蒸気機関車など小型乗り物の新たな遊器具の設置については、遊器具の老朽化に伴い更新が必要と認識しており、遊器具の長寿命化が図れるように整備するとともに、更新に対しては、予算の確保に努めてまいりたいと考えております。

入場料有料化については、有料化に伴い桐生が岡公園の来園者が減少することも考えられ、それに伴い遊園地の遊具利用料が減収となることが考えられるため、慎重に検討する必要があると考えております。こうしたことから、現在、ネーミングライツの実施や募金箱の設置など、新たな取組により財源確保に努めております。

〔回答担当〕都市整備部公園緑地課公園管理係

2 について

桐生が岡動物園・遊園地は、市内はもとより市外・県外からも多くの来園客があり、当市を代表する観光スポットのひとつであることから、同園に来られた観光客をまちなかにも誘導し、桐生市の魅力を楽しんでいただくための観光施策は大変重要であると考えてお

ります。

市では、中心市街地に開館した桐生市観光情報センター「シルクル桐生」をまちなか観光の拠点に、市内観光スポットなどをつなぐ低速電動コミュニティバス「MAYU」の運行を行っており、その中で、遊園地・動物園から重伝建地区やまちなかへ周遊していただくためのルート設定を行い、まちなかへの誘導と観光客の利便性の向上を図っております。また、MAYU車内においてもまちなかの観光情報を手に入れられるような工夫を行い、観光スポットへの滞在を誘導するなど、多くの方にわかりやすく興味を持ってもらえるような取組を今後も引き続き実施してまいりたいと考えております。

〔回答担当〕 産業経済部観光交流課観光振興担当